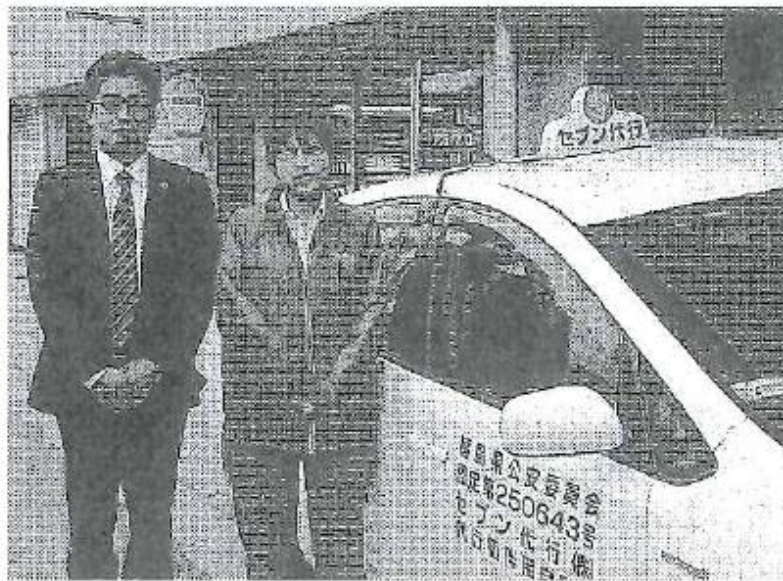


# 運転代行 front

24

セブン代行(福島県郡山市、宗形三彩史社長)は無料通信アプリ「LINE(ライン)」や交流サイト「Facebook k(FB、フェイスブック)」を積極的に使い、需要の拡大に結びつけている。随伴車7台、従業員は20人。  
41歳の宗形社長が注目するのはSNS(ソーシャル)

## セブン代行(福島・郡山市)



「適正な料金を收受し、従業員に還元したい」と話す宗形社長(左)。女性ドライバーと自社の前で

# SNS活用若者利用を開拓

ヤルネットワークサービスだ。若い世代を取り込もうと、2013年にラインの公式アカウント

を取得、代行サービスの適正利用や全国運転代行協会の活動を発信している。配車注文を受け付け、割引クーポンを配信するなど集客ツールとしても活用する。

ラインの登録者が300人ほどと頭打ちになり、昨年からは開始。二つのSNSによって「会社のことがオープンになり、安心感につながっている」。女性客を増やし、女性の従業員も二種免許取得者を含め4人

在籍しており「社のイメージ的に取り組む考えだ。2月に一人で自主パトロールを実施、随伴車の適正な車体表示やAB間輸送(タクシー類似行為)の禁止を訴えた。1カ月で大幅に改善され、手応えをつかんでいる。「法令を順守し、この先も必要とされる業界に」と精神的に取り組む考えだ。

「シェアップに貢献している」と強調する。

良い人材を集めるため、宗形社長は全運協福島県支部長に昨年12月就任し、適正化活動に熱心。